「灯火を伝える」

島根県　清見寺　寺族　堀江まゆみ

コロナ禍で、昨年のオリンピックは一服の清涼剤となりました。開会に先立ち、福島県からスタートした聖火リレー。島根県でも、十四もの市町村を巡って、私の住む松江市にやってきました。

私は幸運にも、そのトーチを持たせていただく機会に恵まれました。トーチは一、二キロありましたが、とても握りやすく、日本人には馴染みの深い「桜」の花が、モチーフとしてかたどられていました。新型コロナウイルスの収束、平和への願い、家族への感謝など、ランナーのみなさんが、絶やすことなくつないで来られたトーチ。トーチを目の前にし、私は胸がいっぱいになりました。

そして、あるお話を思い出しました。神奈川県にある曹洞宗大本山　總持寺に、お参りした時のことです。布教師様からのご法話で、お釈迦様から五十三人のお祖師様を経て、その教えが總持寺を開かれた瑩山禅師様に伝えられ、さらにその教えを、未来に向かって伝えていくことが大切であり、そのことを禅宗では、伝える灯と書いて「伝灯（でんとう）」と言うのだと、教えていただきました。まるで、とても壮大な聖火リレーのようです。

「伝灯」という言葉に込められた、尊い教えの積み重ねと、それを行って来られた代々のお祖師様に思いを馳せると、お寺を預かるものとして、身が引き締まります。私のおりますお寺の現在の住職は、瑩山禅師様から、さらにおよそ二十人のお祖師様を経て、その灯火を受け継いだランナーということになるでしょうか。

住職と共に、受け継いだ「伝灯」のトーチを守り、毎日できることから　実践し、より良い未来につながるよう努めていかなければ・・・・・。そのような思いを新たにしました。